

会員各位

技術研究部会 委員会の委員公募について

平成 22 年 5 月 20 日
技術研究部会 幹事 鈴木昌次

平素から臨床トンネル工学研究所の活動にご協力頂き、心より感謝申し上げます。
技術研究部会では平成 20-21 年度委員会活動として、下記 5 委員会を運営してまいりました。
同委員会は 2 年間の活動を終え、その成果を取りまとめ、成果報告書として冊子およびホームページにて公開させて頂いたところです。

同委員会は技術研究部会の常設委員会として本年度以降も活動を継続いたしますが、第二期からは、会員各位から広く委員を公募することといたしました。本委員会では、トンネルの建設・維持管理に直接関わっておられる技術者の方々の、自由な意見交換の場として、また現状の問題点を現場の視点から指摘し、現実的な提言を行うことを目的の一つとしています。

遅くなりましたが、平成 22-23 年度委員会の委員を公募いたしますので、多くの方の応募をお待ちしております。なお、各委員会の研究テーマ（案）についてはホームページにてご確認ください。

記

(1) 募集委員会

- ・トンネル事前調査委員会 委員長：三木 茂（基礎地盤コンサルタンツ 株式会社）
- ・トンネル事前設計委員会 委員長：永井 泉治（株式会社 エイト日本技術開発）
- ・トンネル補助工法委員会 委員長：松尾 勉（株式会社 ケー・エフ・シー）
- ・トンネル施工技術委員会 委員長：三治 博明（株式会社 すばる建設）
- ・トンネル維持管理委員会 委員長：鷺尾 寛（株式会社 エイト日本技術開発）

*トンネル施工環境・品質委員会は施工技術委員会に改名します

(2) 委員会実施期間 2 年間（平成 22 年 6 月～平成 24 年 3 月）

*公募が遅れたため、開始が 6 月になりますが、終了は 3 月とします。

(3) 募集委員数：1 委員会につき 10 名程度（目安であり、増減があります）

応募者多数の場合は、他委員会・理事長特別小委員会との兼任の有無、同一組織の所属者の有無等により、調整をお願いする場合がありますので予めご了承ください。

(4) 委員は正会員に限ります。賛助会員、非会員の方で参加ご希望の方は委員就任までに正会員の登録をお願いします。

- (5) 本委員会とは別に「理事長特別小委員会」が活動しています。委員会・特別小委員会を通して、委員の兼任は2委員会までとしています。
- (6) 本会では、委員への謝金、交通費等の支給はありません。
- (7) 就任頂いた際には、委嘱状を発行します。
- (8) 委員会によって開催場所が異なりますが、主として中国（広島市）・四国（高松市）・九州地方（福岡市）になります。

(9) 応募方法

下記事項を明記の上、メールにてお申し込み下さい。

E-mailのタイトルには、必ず「委員会応募」と記入下さい。

- ① 参加希望委員会名（事前調査・事前設計・補助工法・施工技術・維持管理）
- ② 氏名、所属
- ③ 会員種別（正会員、賛助会員、非会員）
- ④ 連絡先（電話・メールアドレス）

メール送付先 E-mail : citt.iinkoubo@gmail.com

応募締め切り 平成22年6月11日（金）

以上

技術研究部会 平成 22 年～23 年度 委員会活動方針

【トンネル事前調査委員会】

(1) 研究テーマ

トンネル事前調査結果は定性的であることが多く、明らかにできなかったこと、曖昧さを含んでいる。トンネル事前調査をより良くするためには、調査技術の改良、適切な適用により曖昧さを改善すること、定性的で曖昧な結果を、如何に設計・施工技術者に伝達することが重要である。本委員会では、これまでの成果、課題を引き継ぎ、次のような課題に取り組むたいと考えている。

- ①調査技術者と設計技術者の相互理解の改善
- ②トンネル事前調査における比抵抗の利用法
- ③トンネル事前調査結果の記述，表現方法

(2) 活動方針

これらの課題に取り組むのに際して、事前調査結果を具体的に利用する設計・施工技術者の協力が不可欠である。委員会は、調査技術者だけでなく設計技術者、施工技術者が参画して構成されることを考えている。委員会では、上記で示した 3 テーマを中心に検討を行うが、トンネル事前調査に関わるトピックや新技術についても随時、紹介、取り入れたいと考えている。

【トンネル事前設計委員会】

(1) 研究テーマ

本委員会は山岳トンネルにおける事前設計の在り方について、現状の問題点と、あるべき姿について、明らかにすることを目的とする。平成 20-21 年度に報告書を提出し、残りの課題について議論とりまとめを行う。加えて、新技術の掘り起こしを行う。

(2) 活動方針

事前設計とトンネル施工との間にある問題を拾い出し、その問題を事前設計としてどの様に示すかを、各設計専門者、施工者の意見を織り込むことで、マニュアルや基準書では読み取ることのできない事項について纏める。

【トンネル補助工法委員会】

(1) 研究テーマ

補助工法判定シート（案）の活用と改善

(2) 活動方針

H20~H21 年度において、トンネル補助工法（先受け工法）の適用に関して、現状の問題点や考え方を整理し、必要とされる地質情報や知識、有用な施工時諸情報について検討した上で、補助工法（切羽安定対策工）の判定シート（案）を作成、提案した。

H22 年度は、その判定シートを施工現場にて試行していただくなどして、“現場”からの意見・データを収集しながら評価を加え、改善すべき点等を見出してより良いものへとブラッシュアップを図る計画である。

また、補助工法の判定への動画の活用についての勉強会（ヒアリング）、前方削孔探査（ノンコアボーリング）に関するヒアリングや資料収集等を行って補助工法判定の高度化を図る、あるいは、補助工法（切羽安定対策工）自体に照準を当て、例えば、実際に効く補助工法とは？、先受け工で注入量が設計以上に入った時の判断（逆に、入らなかった時の判断）は如何に？、通常 120° とされる打設範囲の考え方、補助工法の組合せ（長尺先受け＋短尺鏡補強工と長尺先受け＋短尺鏡補強工ではどちらが有効か etc.）等についても対象内容として検討中である。

さらに、これらのテーマは委員会の中だけで議論するだけでは集約できない可能性があり、広く会員にアンケート等で意見を聞き、それらを分析して報告するという形式の進め方についても

考案中である。

【トンネル品質・環境委員会】

(1) 研究テーマ

本委員会では、現場での問題点、工夫点(施工方法・仮設備)、留意事項等を現場技術者の目線で見つめ直し、『安全で・明るく・作業し易く・高品質な・美しいトンネル』の観点から、トンネル建設現場でのあるべき姿を提示していきたいと考えている。

H20-21 年度に施工品質を主体に本委員会を実施してきたが、今年度は施工環境を中心に取りまとめていきたいと考えている。

(2) 活動方針

①現場を主体とした意見交換

各委員が施工中のトンネル現場を題材として、現行の施工における課題点・品質上の改善点などについて意見交換を行う。これらの意見交換を土台として、当委員会での報告内容の方向性と具体的テーマを取りまとめ、提言集としたいと考えている。

②これまでの基準書や定説に囚われない現場の感覚を重視した提言集の作成

施工品質あるいは施工環境については、いくつかの基準書や出版物にて活字となっているが、本委員会では、これら既存の考え方・ルールに囚われず、現場における感覚や効率などを重視し、提言集として取りまとめたいと考えている。

【トンネル維持管理委員会】

(1) 研究テーマ

H20-21 年度は、地方自治体をターゲットに合理的な点検の流れや方法をテーマに活動しました。今年度は「設計手法」と「ライフサイクルコストを含めた保全方法」「覆工コンクリートの長寿命化」「覆工コンクリートの長寿命化を前提として構造・施工方法」をテーマとする。

(2) 活動方針

①補修対策の設計スペックを確定するにあたり試行錯誤の現状であることから補修実績トンネルの動向調査結果に基づき耐用年数を実績を加味した設計マニュアルの作成。

②今後の保全に着目した長寿命化のための補修技術～覆工構造～施工方法を検討する。